



一般社団法人
全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 佐野元彦 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org

会報

No 84



再発見！愛！

～ 今こそ信じよう 愛の絆 ～

第66回 全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が「再発見！愛！」～今こそ信じよう愛の絆～をテーマに8月25日(木)26日(金)の2日間、開催されました。会場となった幕張メッセには全国から10325名が参加し、熱気あふれる大会となりました。

本大会は分科会を含めてすべての会場がほぼ一か所で行われるコンパクトな大会となり、参加者は効率よく研究協議を深めることができました。

開会式は幕張イベントホールを主会場、国際展示場を副会場に映像配信方式で行われました。来賓として松野博一文部科学大臣、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長が臨席されました。

表彰式に引き続き、午前は基調講演が行われ、午後は7会場に分かれて、活発な分科会研究協議が行われました。

開式前、昼休みには千葉県高校生による華やかで力強いアトラクションがあり参加者を元気づけました。

二日目の閉会式では記念公演、全国高P連理事による分科会報告が行われ、その後、満場一致で大会宣言が採択されました。

今大会はいたるところで鮮やかなピンクのポロシャツを着た千葉県PTAの温かいおもてなしがあり、参加者は気持ちよくプログラムをこなすことができました。

今号の主な内容

全国大会 千葉大会	1 頁
会長式辞・実行委員長挨拶	2～3 頁
大会の様子	3 頁
分科会報告	4～6 頁
大会宣言	6 頁
定時総会報告	7～8 頁
地区大会	9～13 頁
北海道地区／東北地区／関東地区 東京地区／北信越地区／東海地区 近畿地区／中国・四国地区／九州地区	
賠償責任補償制度のお知らせ	14 頁

平成28年度一般社団法人 全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿	15 頁
組織概要・会員概況	16 頁



会長式辞

開会式

佐野 元彦



(要旨)

今大会の大会テーマは、『再発見！愛』。今こそ信じよう愛の絆です。子どもを「家庭や地域の宝」と捉え、深い愛情を注いで育ててきた我が国。社会の在り方や価値観の大きな変化に伴い、子どもをみんな育てようとする気持ちや薄らいできた状況を憂い、『家庭と地域の教育力』を再興し、『学校の教育力』と手を携えて、社会総がかりで子どもを育てようという呼びかけです。

える方向に動き出ししました。少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展という現状に加え、第4次産業革命とも言われる人口知能(AI)やロボット技術の発達に伴う社会の大きな変容。そのような社会を支え、発展させていく人とは、どのような「力」を備えた人なのかという問いに対する答えと言ってもよいでしょう。

知識・技能の修得は勿論のこと、目の前に次々と現れる新たな課題に対して、身につけた知識・技術を駆使して思考し判断する力。主体的に挑戦しようとする態度。多様な人々と協働して取り組もうとする姿勢と、それを可能にする表現力。即ち、社会環境がどのように変化しても、柔軟に対応し、善き方向に変えていく、真の「生きる力」を身につけた「自立した人」を育てていくこと、また、評価についても、知識・技能の修得のみならず、多様な力を多面的に評価するように変えようとしています。

この壮大な取り組みを成功させるためには、学校のみならず、家庭・地域の協働が必要であり、まさに社会総がかりで取り組むことが重要です。私たちPTAは、学校・家庭・地域を結びつける存在だと標榜してきました。今こそ、言葉だけで終わらせることなく、全国津々浦々で展開されている各学校のPTA活動が社会総がかりの起点となるよう、行動で示していく時です。

私たちは、PとT、保護者・家庭と教職員が協働する団体です。両者の願いは、子ども一人ひとりが自立した人となつて、幸福な人生を送ってくれることであり、子どもたちの自立を支援しようという想いを同じくする同志です。PとTがしっかりとベクトルを合わせ、手を携えて、子どもたちの自立を支援する人、「自立支援者」として活動してまいりましょう。

対しても、この「自立支援者」という視点を取り入れることで、きつと善き解が見つかるものと考えます。

本大会に参加された皆様が研究協議を通して多くの学びと気づきを得て、今後の各校のPTA活動の更なる発展に活かしていた、たくよう願ってやみません。

実行委員長挨拶

大木 幸夫



(要旨)

全国各地よりご参加の皆様、千葉県幕張の地へようこそ！ここ幕張新都心は、幕張メッセ、国際会議場をはじめとするインターナショナルな施設や、ビジネスガーデン、研究機関、商業施設、教育機関などが隣接する、近代都市として知られております。その一方で、

千葉県は四方を水に囲まれた自然の恵み豊かなところですが、ご参加の皆様にはこの二極のコントラストを是非楽しんでいただきたいと思います。野菜、フルーツ、新鮮な魚をはじめ、季節の食も是非ご堪能ください。心より歓迎申し上げますとともに、実行委員一同大変うれしく思っております。当委員会は、一昨年に準備委員会として発足し、これまでに福井大会、岩手大会と運営を学ばせていただきました。遠方より足を運んでくださる方々、近隣都県、開催を楽しみにしていただく方々に、より新しく、より充実した情報を発信する機会にすべく準備を進めてまいりました。

歴史のある本大会を初めて主管させていただいたことは、我々千葉県高等学校PTA連合会にとつて、この上ない名誉なことだと思っております。その一方で、初めての事だらけで始めは不安でした。無経験、無知識なことを先駆者から学び、仲間と議論し、悩みながら過ごしてきた今日の時間、目標に向かって学び、悩み、行動している青春真っ只中の子供達と似た気持ちを味わえたのかもしれない。『知識と経験が増えることは、感謝、と尊敬をできる人が増えること』と言うのが私の座右の銘です。大会を通してこのことを改めて実感できました。大会テーマ『再発見・愛』。今こそ信じよう愛の絆を全国の皆様にご披露する前に、実体験させていただいた気持ちです。

こんにち、社会や子供たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化し続け、『子供達の健全育成』を旨とする我々PTAも、その都度、的確な対応が求められます。一例を挙げるとするならば、スマートフォンなどの使い方について、毎年様々な意見、対策が検討され整備されていきますが、これは残念ながらすぐに役に立たなくなるでしょう！なぜならそれは、『手段』に過ぎないからです。『手段』は、環境でどんどん変化します。ポケベル↓携帯電話↓スマートフォン、

これから先も変化し、そのスピードはより加速することでしょう。当然、『手段』もその都度変わります。ほかに、健全育成のための『手段』は変化し続けていくでしょうし、そうでなくてはならないと思います。しかしながら、そこにある『軸』は何時の時代も変わらぬものだと思います。そこが、今大会のキーワード『愛』です。『愛』にはいろんな愛があります。人々を思いやる気持ち、優しさ、こういうものがどんな『愛』にも共通しているように思います。そしてこれを教育として受け取り、教育として繋いでいくことで、その時代にあつた『手段』が生まれ続けていくのではないのでしょうか？

それともうひとつのキーワード、『再発見』です。当たり前になつていて気づかない『愛』はありませんか？『愛』がないのではなく、『愛』に気がつかなくなつてしまつていないでしょうか？もったいないですよ？皆さんにとって大切な愛をひとつでも再発見して

いただける大会になれば幸いです。

そして、2日間にわたる研究協議が皆様にとつて実り多いものになることを、更に子供達の健全育成に必ずや活かされまことを祈念申し上げ開催に当たりましての挨拶といたします。

来賓祝辞

文部科学大臣

松野 博一 氏

千葉県知事

森田 健作 氏

千葉市長

熊谷 俊人 氏

表彰式

平成28年度優良PTAとして33団体が松野大臣より文部科学大臣表彰を受けました。

続いて全国高等学校PTA連合会会長表彰として個人78名、高校等PTA83団体、役員40名が佐野会長より表彰されました。

受賞者を代表して椎野正敬氏（全国高P連・前副会長）が謝辞を述べました。

また、全国大会岩手大会実行委員長と岩手県高P連に特別感謝状が贈られました。

基調講演

「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」

「今こそ信じよう高校生を」

千葉敬愛短期大学学長

明石 要一 氏

高校生の間に体験活動をはじめ様々な格差が広がっていること、今こそPTAの果たす役割が重要であること等をわかりやすく講演いただきました。

記念公演

私の選んだ女優の道々

女優 市原 悦子 氏

戦時中の疎開先での体験、千葉高等学校在学時の演劇部時代等のお話を交えて豊かな女優人生をご公演いただきました。

最後のグリム童話「ねずみの木の話」、野坂昭如戦争童話集「凧になったお母さん」の朗読は圧巻でした。

アトラクション

大会初日、オープニングに柏市立柏高校と習志野市立習志野高校の吹奏楽部の演奏がありました。

また、昼には富里高校ジャズ・オーケストラ部、東金高校箏曲部の演

閉会式

全国高P連理事が分科会報告を行い、その後、満場一致で大会宣言が採択されました。続いて来年の静岡大会にむけたアピールが行われ、千葉大会実行委員会の労をねぎらいつつ、大会の幕を閉じました。



分科会報告

全国高P連研究発表

～進路選択と親子のコミュニケーション～

研究発表は一部、二部構成で、一部では「第七回高校生と保護者の進路

に関する意識調査」の結果から見えてくるさまざまな問題や課題が挙げら

れ、過干渉過ぎず、適度な距離を保ちながら子供の自立を促すことが大切

ということと、保護者の関わり方が子供の進路選択に大きな影響を与えているという事が分かりました。

学校の立場から親子のコミュニケーションと子供たちの自立について活発な議論がなされ、自立とは自分で考え、自分で決断し、その結果に責任が持てることが自立であ

り、何事も身をもって体験することによって、子供自身の生きていく力につながるというお話がとても印象に残りました。
(野田誠理事)

第1分科会

学校教育とPTA

～再発見！愛 グローバル化に対応した資質・能力を育む～

第1分科会はこちらの第9ホールで「学校教育とPTA」をテーマに盛大に開催されました。

北海道 東京 京都

岡山からの発表は、それぞれの地域の特色と課題を踏まえその課題解決に向けた日々考え動くPT

A活動をテーマとした内容でした。

いくつかのポイントと、アドバイスを頂戴したお二方のご助言をまとめて報告いたします。

まずは発表内容のポイントからご紹介します。
・学校や地域での豊かな

コミュニケーションが必須
・親がグローバル化に対応しないと子どももグローバル化対応できない
・大学はゴールではない
・役員が楽しんで活動していないと会員も楽しんで活動できない
・自分たちが体験し学習

コミュニケーションが必須
・親がグローバル化に対応しないと子どももグローバル化対応できない
・大学はゴールではない
・役員が楽しんで活動していないと会員も楽しんで活動できない
・自分たちが体験し学習

しその姿を子どもたちに見せてあげること
・子どもたちへは教えるのではなく、きづきをおたえるコーチングが大事

笑顔でPTA活動することが大切なことだと受け止めました。

全国のなかでもそれぞれの地域の課題があり、その解決方法についてもいろいろなやり方があると思います。

サブテーマであったグローバル化への対応に対して各校の取り組みが伺えました。しかしながらその根底にあるのは、その求心力の一端を担うのがわれわれPTAであり、課題解決へと楽しく

笑顔をPTA活動することが大切なことだと受け止めました。
全国のなかでもそれぞれの地域の課題があり、その解決方法についてもいろいろなやり方があると思います。

さまざまな方法がある中、自分たちの課題にそれをどう取り入れることができるかを、生涯学習でもあるPTA活動を通して、
(大石幸和理事)

第2分科会

進路指導とPTA

～再発見！愛 希望進路を実現する進路指導～

本分科会では「進路指導とPTA」再発見！愛、希望進路を実現する進路指導というテーマです。4校より発表された研究協議では多くの工夫

と提案に満ちた素晴らしい内容でした。宮城県仙台向山高等学校の進路学習「向陵プラン」の取組み、栃木県立栃木高等学校の90%を超える驚異的

なPTA総会出席率からの進路指導への効果、福井県立福井農林高等学校の産業界と連携された模擬面接の取組みとグリーンメールによる学校と家

庭のつながり、高知県立高知工業高等学校の探求型人材育成（イノベーションK.T.）の取組み。どれも子どもたちの夢の実現に向けての学校・地域・家庭・産業界のそれぞれの役割、そしてそのつながり・連携を深めるアイデアに満ちあふれた

未来志向の発信です。このすばらしい取組みのヒントから自ら学び考え主体的に行動できる人材育成の様々な場面・機会に私たちがどのように関わっていくことができるのか？向かいあい、そして学び続けるPTAでありたいという強い思いを

強いメッセージを、本年千葉大会第2分科会から強く大きく発信することを報告いたします。
(泉満 理事)

強いメッセージを、本年千葉大会第2分科会から強く大きく発信することを報告いたします。
(泉満 理事)

第3分科会

生活指導とPTA

〈再発見!愛 思いやりのある「豊かな心」を育む生徒指導〉

思いやりある「豊かな心」を育む生徒指導をテーマに、特色ある4校の研究発表及び、情報交換を行いました。

福島県立葵高等学校からは、「生徒・保護者・学校三者の意思疎通が重要であり、PTA活動を全て保護者に伝える努力

をしている。」との発表がありました。

静岡県立焼津水産高等学校からは、「朝食を食べさせる指導の実施による、生徒への好影響として、欠席・遅刻・早退・生徒指導件数の減少、そして虫歯までの減少が顕著に表れたデータに基づ

く報告」があり、「今後は体力・気力の向上による学力向上を目指す。」との発表がありました。

滋賀県立長浜農業高等学校からは、「総会後に3学年の生徒を講師として招き、保護者がパン作りや、草花の寄せ植え体験を取り入れているこ

と、また11月19日に農産物販売会を行うので、是非来校いただきたい。」とのPRもありました。

佐賀県立多良高等学校からは、「様々な不安を抱える生徒たちとPTAが正面から向き合い、常に未来ある生徒たちのためを考え、夢を育む活動」の発表がありました。

助言者のお二人から「素晴らしいの一言である!」、生徒指導は、ま

に「愛の絆」それぞれのコミュニケーションが重要な要素であるとの助言をいただき、千葉大会実行委員会の「愛に満たされた」第3分科会でした。

ここで少しお時間いただき、4月14日発災の熊本地震に際し、全国の皆さま方より心のこもった沢山のご支援を頂いており、誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

(川部幸博理事)

第4分科会

家庭教育とPTA

〈再発見!愛 多様化する情報社会における青少年の健全育成〉

第4分科会のメインテーマは「家庭教育とPTA」です。スマホの爆発的な普及など情報社会とどう向き合うか、人と人の生の付き合いから生まれるコミュニケーションとは何か、について、4高のPTAが健全育成の視点で話し合いました。印象深かったのが、茨城県立波崎高校PTAの

報告です。スマホ利用の実態調査を、生徒、保護者、教員を対象に実施。スマホの知識について、生徒と保護者の間に格差が広がっていることを突き止めました。そこで、保護者が学び、保護者が保護者に教える「スマホ指導員」の必要性を説きます。

この取り組みについて、助言者である中央学院大

育や健全育成についても、示唆に富む発表がありました。

三重県立石薬師高校PTAは、家庭教育力を高めるためにはまず、親の視野を広げることが必要と考えたそうです。保護者が先生、生徒と共に学ぶ機会として、研修会や講座を開きました。

金沢市立工業高校はPTA役員による就職模擬面接など活発な活動を通して親と子の絆を強くしています。生徒と教員、

保護者を一つの「チーム」と強調したことが印象的でした。

福岡県立西田川高校PTAはこう力を込めました。「先生と保護者の信頼関係があつてこそ、生徒たちは安心して社会の入り口に立つことができます」。PTA活動の心構えとして、記憶に残る言葉になりました。

淑徳大学の山西哲也准教授は、PTA活動を授業に組み込むアイデアを紹介。行事への参加率を

アップするために、PTA活動を通して保護者がどれだけハッピーな気持ちになったのか、子どもたちがどれだけ成長したのかをアピールする大切さを強調しました。

スマホとの付き合い方など、私も悩める親の一人です。大変参考になる話し合いでした。地元に戻り「再発見、愛」を実践したいと思います。ありがとうございました。(山野公寛理事)

特別第1分科会

学校の危機管理とPTA

〈生徒指導上の諸課題解決のために〉

基調講演で千葉科学大 学教授上北先生から、「大

人達が子供からリスクを排除する事で結果、子供

達はリスクと向い合う機会を失いリスク対応が未

熟なまま成長している。自立を望む親と先生の思いとは裏腹な方向に子供達を導いている」とお話を頂きました。その中でリスクに向き合わせその

経験により自助、共助を養う「大航海方式の教育」を提言されました。パネルディスカッションでは、単Pで役員をされ教育にご熱心な4名

の保護者と、生徒の為に日々頑張っておられる2名の先生に入って頂きました。4名の保護者は共に、大航海方式の教育に賛成であり、リスクに向

◆ 全国大会千葉大会 ◆ 大 会 宣 言 ◆

『再発見！愛』～今こそ信じよう愛の絆～」をテーマに、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、房総の地で開催され、大きな成果を収めました。

我が国では、長い間、子どもは「家庭や地域の宝」であり、みんなで子どもを育てて来ました。私たちは、ここに子どもに対する深い愛情を感じたものでした。

ところが、近年、社会の在り方や価値観が大きく変化し、家族や地域のつながりは弱いものとなり、子どもをみんなで育てようとする気持ちが薄らいできたように思います。

私たちは、かつては当たり前だった「家庭と地域の教育力」に注目し、「学校の教育力」と手を携え、子どもをみんなで育てようとする社会の再生を提唱します。

それは、子ども、家庭、そして地域も生き生きとする社会です。家庭、地域、学校の協力を「絆」、子どもを育てることを「愛」と考えると、「絆」を再構築することが、「愛」の再発見につながります。

本大会では、子どもたちをみんなで育てる社会を再び作り上げるために、PTAの果たす役割や活動の在り方について熱心に討議されました。

ここに大会の成果を踏まえ、PTA活動がより一層、活性化し発展することを願い、以下のとおり宣言します。

- 一 これからのグローバルな社会に対し、子どもたちが自分で考え、行動し、多様な社会に対応出来る力を高められるように、私たち大人が、環境を整え、子どもたちの資質や能力を育むように努める。
- 一 自分の夢は何なのか、将来自分のやりたい事は何なのか、子どもたちの夢や希望を叶えるために、私たち大人が連携し、手本を見せ、子どもたちの夢の実現の支援に努める。
- 一 大切なものは何なのか、必要なことは何なのか、子どもたちの個性や感性を伸ばすために私たち大人が家庭、学校、地域で連携し、子どもたちの思いやりのある豊かな心を育てるように努める。
- 一 情報が溢れ、利便性が飛躍的に向上している社会の中で、子どもたちが正しい知識や、コミュニケーション力を培う必要がある。そのために、私たち大人が、人と人との付き合いを通して子どもたちに、次世代に繋がる真の信頼関係を築くためのコミュニケーション力を伝えるように努める。

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会において宣言する。

平成28年8月26日

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

特別第2分科会

情報機器と学校教育

～高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について～

テーマは「スマートフォン」、ポイントは3つ。

一つめは、

「平成25年問題」

藤川先生の講演によると、高校生のスマホの所有率が80%を超えた25年を節目に、ネットいじめ等が増加。今や所有率は

97%、平均使用時間は192分。

次に二つめは、

「ツイッターを使ったディスカッション」

コディネーターの市野さんの発案で、ツイッターで会場の方の意見をリアルタイムでスクリー

ンに写される斬新なスタイルで、150もの意見が書き込まれました。(＃スマホ千葉)

そして三つめは

「元気な高校生パネリスト」です。地元千葉県の保護者2名、先生2名の実践に基

き合わせ自立を促すことをご発言くださいました。先生は、生徒達にリスクを経験させ教育して行く

事は現場としては難しいというお話でした。これを受け上北先生より、リスクと向き合わせる事に

はバランスが大切で命に関わる事にはしっかり指導するべきであるとおっしゃって頂きました。

子供をどうリスクと向き合わせるか、それが子供の自立に繋がり自助、共助を身に付ける事が、

これからの教育のフアクトリーになるという結びで分科会を閉じました。

(川原慎一理事)

づく意見に加えて、二人の高校生、滝田さんと岩瀬さんのお話が大好評でした。検索や部活、学校の連絡、友達とのコミュニケーションなど、毎日スマホを使いこなす二人。高校生にはスマホは必需品で、使うなど言っても無理。使い方は個人の裁量なので、家庭で腹を割って話し合うことが大切と。また、PTAの

研修会に参加しないような方にどう伝えるか？という問題については、高校生のほうがスマホには詳しいので、高校生にしっかりと教育し、子供から親に伝えるのが良いのではという目から鱗の発言もありました。

大人もスマホを理解し子供と話し合っていくことが大切だということを、高校生と共に学ぶことができた分科会でした。出演者、発表者、そして千葉県の皆様、本当にありがとうございました。(森野真理事)

28年度
定時総会報告

第1号議案、27年度事業報告、第2号議案、27年度収支決算について、27年度監査報告について

第1号議案、27年度事業報告、第2号議案、27年度収支決算について、27年度監査報告について

1号議案については佐野会長、内田事務局長代理（池口事務局長病気療養のため代行）が説明、2号議案については菊池事務局次長が主に説明した。

27年度事業報告

総会資料に基づき佐野会長が概要を説明した。特徴的な活動の報告として

○18歳選挙権、地域と学校の連携（コミュニティースクールなど）についての研修会が活発に行われた

○調査広報システムを導入した

○ホームページの充実（事例研究、アーカイブ化）を図っている

○文科省・内閣府等、「高大接続」「中教審・教育課程部会」等の協議会委員に積極的に参加し、要望提言活動をしている等

があげられた。

①賠償責任補償制度運営委員会の制度維持の活動（掛け金値上げ）

②東日本大震災被災地活動支援等、重要事項を取り上げて追加説明があった。

さらに、佐野会長より賠償責任補償制度維持のための活動の現状と審議経過について補足説明がなされた。

27年度収支決算報告

27年度監査報告

菊池事務局次長は、総会資料の「貸借対照表」、「貸借対照内訳表」、「正味財産増減計算書内訳表」、「財産目録」、「収支決算書」、「公益目的支出計画実施報告書」に基づいて、主な事業の決算報告を具体的に説明した。

続いて吉川代表監事は、「監査報告書」に基づき、会計監査及び業務監査（平成28年5月21日実施）について、監査の方法の概要及び監査意見を述べ、適正に会計処理されていることを報告した。

会員より、賠償責任補償制度の掛け金値上げに

関して総会に上程しなくてよいのかと質問があった。

会長より定款にあるように、理事会がこの法人の業務執行の決定機関であり、理事会で全会員から十分、意見聴取し、審議を重ねた上で本日の報告に至っているとの説明があった。

第1号議案、第2号議案まとめて表決の結果、賛成多数、全会一致で本議案は承認された。

28年度役員選任

28年度会長、副会長、専務理事、常務理事の選任会長選出地区補充理事の選任

第3号議案で、平成28年度役員（理事・監事）案が提案された。表決の結果、賛成多数、全会一致で本議案は承認された。

休憩時には第3回理事會が開催され、会長・副会長・専務理事・常務理事の執行部が選任された。

休憩後、会長・副会長・

専務理事常務理事が満場の拍手で賛意が示された。

続いて第4号議案、会長選出地区（東北地区）補充理事が選定され、全会一致で承認された。

【報告事項】

○新役員が紹介された。

○役員を代表して佐野元彦会長が所信表明を行った。

「理事会の重要な役割を十分果たしていききたい。連合会の組織図を変えた。組織図の一番上に高校生が生き生きと活動している姿がある。各学校のPTAが活動の中心であり、それを都道府県市連合会、全国高P連が支えていくことになる。そのことを肝に据えて活動していきたい。」

教育を取り巻く状況が大きく変わってきている。学びの場、教育を通じてどのような人を輩出していくかということである。自立した人間を育てていくということである。

その意味で保護者は「自立支援者」という視点が重要になってくる。高校は社会に出ていく上

での最終関門、高校卒業時に自立して社会を生き抜く力を高校生に身につけて巣立ってもらいたい。この「自立支援者」という視点をもって28年度の高校PTA活動を進めてもらいたい。そのために必要な情報提供、体制整備、各機関との連携を全国高P連として責任をもって進めていきたい。各連合会においても同じように取り組んでいただきたい。

最後に「良きことは力タツムリのような速度で動く」というマハトマ・ガンジーの言葉を引用し、PTA活動への信念を述べた。

○会長は各委員会の委員長・委員の委嘱を行った。○会長は顧問・相談役の委嘱を行った。

○第65回全国大会岩手大会渡辺正和実行委員長より決算報告が行われた。

○第66回全国大会千葉大会大木幸夫実行委員長が挨拶した。

○佐野会長より第69回全国大会（平成31年度）開催県として近畿地区京都府・京都市に主管依頼を

【議事】

ついで議長に金井修副会長が選出され、議事に入った。

○平成28年熊本地震義援金(第一次分)
2600万が会長から九州地区代表・熊本県連会長・川部幸博氏に託された。川部会長が感謝を

田中清美福島県連会長が謝辞を述べた。
「福島はまだ避難が続いている。今年が最後になる学校が5校もある。義援金はこのような学校への支援に活用したい。今後ご理解ご支援の程お願いする」

行った。
京都府高P連会長、野田寿宏氏が受諾挨拶をした。
○東日本大震災に係る第8次義援金270万円が福島県連会長に託された。



熊本地震の被災状況を語る川部熊本県連会長

高校総体熊本大会の開会式中止、総合文化祭のほとんどが中止等で残念な思いもした。またの機会を設けさせてあげたい。いただいた義援金は生徒の心のケア等に使わせていただきたい。また阿蘇地域の子が現在臨時バスを使用しているがそのようなことへの援助に

のべるとともに、現状報告をした。
「まだ余震もおさまらず、集中豪雨も重なりいまだ予断を許さない状況である。熊本県公立高校63校のうち43校が被災した。熊本高校、熊本第二高校は特にひどかった。床が傾き、天井落下等が起きた。でも生徒は夢に向かつて学びを進めている。」

も使いたい。「肥後もつこす」のDNAで頑張りたい。来年の九州地区大会は熊本だが復興のシンボルとなるようにしたい」

最後に退任理事を代表して椎野正敬前副会長が挨拶した。



▶28年度役員
後列右から
山本理事 池本理事
川原理事 杉浦理事
森野理事 野田理事
大石理事 泉理事
山野理事 川部理事

前列右から
北村監事 戸専務理事
木戸専務理事 森崎副会長
佐野副会長 牧田副会長
内田常務理事 坂井代表監事

グローバル化時代を生きる高校生を応援します



高校生新聞® 高校生スポーツ®

グローバル化や情報化が急速に進展する中、高校生を取り巻く状況も大きく変化しています。これからの日本を担う高校生に、希望をもって生きる力と知恵を育んでほしい。高校生新聞はそんな思いから、学校生活、社会や世界の動き、進路や学問など、高校生に知ってほしい確かな情報をお届けします。

●1993年創刊 ●毎月10日発行(8・2月休刊) ●タブロイド判/カラー/16~28ページ
●年間購読料2,160円(税・送料込) 定期購読のお申込みはホームページから



学校パートナーズ

▼取材依頼は編集部まで

高校生新聞社 TEL.042-725-1155 henshu@scipa.jp

東京本社:〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10
大阪本社:〒552-0007 大阪府大阪市港区弁天1-2-1-300

<http://www.koukouseishinbun.jp/>

北海道地区

道南大会

『身近な人と結ぶ信頼の絆』



平成28年度北海道高等学校PTA連合会大会は、6月11日(土)・12日(日)の両日、道高P連13支部235校1130名が出席し開催されました。

今年の開催地は新幹線開通で一層輝く日本有数の観光地、函館市です。「異国情緒あふれる街並みを散策し、宝石をちりばめたような夜景を楽

しみ、ゆつくり温泉につかり、おいしいイカ刺しに舌鼓を打てる函館で、まったり、ゆつくり、ほっこりしながら語り合いましよう」という大会メッセージどおり、和やかな大会になりました。

初日、午前中に開催された総会では、各案件の承認と役員改選が行われ、3名の新役員を含め、山本富造会長以下9名の役員が選出されました。また、道高P連・全国高P連に大きな足跡を残し、この度、退任する村上義人・洞野博文両監



事の略歴紹介等があり、代表して退任の挨拶をした洞野監事

を申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りしました。また、設立2年目を迎えた北海道高等学校安全互助会に触れ「皆様のご理解をいただき、現在、187校の生徒6万6千人に加え、教職員と加入生徒の保護者であるPTA会員を合わせると約18万7千人を対象に共済事業を実施している」と感謝を表し、「この事業を、より充実させることでお互いに助け合う輪を広げましょう」と呼びかけました。



続いて、高橋則行大会実行委員長と佐野元彦全国高P連会長の挨拶、菅原行彦北海道教育委員会

教育指導監、大鐘秀峰北海道高等学校校長協会会長、山本真也函館市教育委員会教育長よりご祝辞をいただきました。初日のメインである講演会は、本大会主管校、遺愛女子高校の同窓生で講師「田辺鶴瑛」様をお迎えし「不まじめ介護で重荷を下ろして」と題し、講演ならぬ「講演を

談で、時には爆笑、時には涙を流し、大きく頷き、聞き入りました。会場の一人一人が介護する側になり、される側になり、人間の命、医療や社会の在り方、更には自分自身の最期までをも考えさせられる素晴らしい講演でした。

2日目は、会場を遺愛女子高校と市立函館高校の2校40分科会に移し、「身近な人と結ぶ信頼の絆」こそが子どもたちの温かい支えになるという共通の思いを胸に、各チームを本音で活発に語り合い、情報を交換し、全日程を終了しました。

東北地区

仙台大会

『復興から創生へ 集え！伊達の地に』

『子どもたちの夢を応援するPTA活動』

第65回東北地区高P連仙台大会は、仙台七夕を一月月後に控える7月7日(木)・8日(金)の2日間にわたり開催されました。

今回の大会では、東日本大震災と福島原発事故から5年が経過



今年度の大会では、東日本大震災と福島原発事故から5年が経過

し、7日(木)に研修視察「被災地は、今」オプショナルバスツアーを企画しました。参加者が187名を数えたため、二班に分け、それぞれ3時間の行程で実施しました。参加者は、津波を受け廃校となった小学校などを車窓から見学した後、キリンビール(株)仙台工場を訪問し、津波で被害をうけた当時の状況から現在までの取り

組み、特に地域支援や学校支援に貢献している様子などを知ることができました。本大会の前夜祭となる情報交換会には、624名が参加しました。奥州仙台おもてなし集団「伊達武将隊」のお出迎えと演舞、仙台の伝統芸能を通じ、地域交流、復興支援に協力し活動を続けている宮城大学すずめ踊り



宮城県農業高校 和太鼓部

サークル「娘」すずめ」による歓迎の舞、東北大震災後に仙台市で結成された社会人応援団「青空応援団」による熱きエールが繰り広げられ、大会チームの韻を踏むかのごとく散りばめられた演出の中、県の垣

根を越えた会員同士の交流が持たれました。明けて8日(金)の本大会。前日の熱気もそのままに、会場の仙台サンプラザホールに1,432名が参集しました。太鼓の力で地域を元気にする応援団「宮城県農業高校和太鼓部」「宮農復興太鼓」がオープニングを飾り、開会行事が行われました。「地方創生の主役となる子どもを守り育てるために」東日本大震災の学校災害



「わせねでや」を歌う仙台南高校合唱部

を教訓として」と題した宮城教育大学教授 田端健人先生の基調講演では、あの日あの時、子どもたちのいのちがどのようにして守られ、その後、子どもたちは復興や創生にどのような力を発揮したのかを、数々のファイルドワークで得

たデータや実例をもとにご講演いただきました。来年行われる「みやぎ全国高校総文祭2017」・「南東北インターハイ

2017」の生徒PRをはさみ、午後には、研究協議が行われ、各県代表の方々が発表されました。発表テーマはそれぞれ

れ多彩でしたが、いずれも「子どもたちのために何が出来るか?」「子どもたちを理解し応援するためには?」という課題に

取り組む真摯な姿勢が伝わってきました。エンディングは、宮城県仙台南高校合唱部とともに参加者全員が復興ソ

グ「わせねや」を合唱し、次期開催県である岩手県にバトンを渡しました。結びにあたり、ご支援ご指導いただいたすべて

の関係各位並びに会員の皆さまへ、改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

関東地区

山梨大会

『自立をたくましく、しなやかに』



第62回 関東地区 高等学校 PTA連合大会 山梨大会

会では、各議案が承認され、神奈川県立高P連の大石幸和会長が新たに関東地区高P連会長に就任し、次期大会開催県は神奈川県になりました。

の後、ご来賓の後藤斎山梨県知事、守屋守山梨県教育長、工藤眞幸甲府市副市長、坂本明大山梨県高等学校長協会会長よりご祝辞をいただきました。

自身の子供たちから、影響を受けた恩師のことで、スキーに明け暮れた学生時代、研究に対する心構え、ノーベル賞受賞のきっかけとなった寄生虫による風土病の治療薬イベルメクチン開発のこ

第1分科会において栃木県立高根沢高等学校と茨城県立下妻第一高等学校、第2分科会では神奈川県立座間高等学校と山梨県立市川高等学校、第3分科会では千葉県立大原高等学校と茨城県立竜ヶ崎第

立行政法人国立特別支援教育総合研究所の藤本裕人先生の講演と情報交換が行われ、熱心な意見交換がなされました。

会は、関東7県から約3,000名の参加者を得て、7月8日(金)、7月9日(土)の2日間

会式では、上野和也関東地区高P連会長と佐野元彦全国高P連会長の挨拶に続き、関東地区高P連の活動に功労のあった個人・団体に表彰状と感謝状が贈呈されました。

続いて、大会宣言文が原案どおり採択され、次期開催県発表・代表挨拶、参加者代表挨拶を経て開会行事を終了しました。

記念講演では、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した北里大学特

習中止を受け、PTA有志により、「大島連絡会」を発足させ、海洋実習行までの取り組みが報告されました。現在は、海洋実習の継続と内容の充実を目的に「大島連絡会」を発展的に

に解消し、PTA内の委員会を発足し活動推進中です。また、富士高校からは、「自ら考え自らチャレンジできる力 夢を実現するためのアシスト」と題し、学校の授業の中で、PTAが主催し、キャリア講演会を行っている事例発表がありました。講



東京地区

東京大会

『再発見!愛』〜対話の力無限大〜

去る7月9日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第28回東京地区高等学校PTA連合会大会 大会

挨拶に続き、森崎綾子全国高P連副会長の挨拶、東京都教育庁地域教育支援部主任指導主事南和男様よりご祝辞をいただきました。

やジャグリングのアトラクションで大会を盛り上げました。

また、ホワイエでは、各地区の活動内容を1枚のパネルにまとめ展示を行い、都

基調講演では、夜回り先生こと水谷修氏をお招きしました。講演は、夜回りを始めたきっかけから始まり、夜回りの現状、肯定することの大切さ、心を健全にするヒントなど、子ども達に「生きて欲しい」というメッセージを伝える続ける活動を60分という短い時間に凝縮し、有意義な講演でした。

また、富士高校からは、「自ら考え自らチャレンジできる力 夢を実現するためのアシスト」と題し、学校の授業の中で、PTAが主催し、キャリア講演会を行っている事例発表がありました。講

対話の力無限大、が開催され、足元の悪い中多くの保護者・生徒が参加しました。開会式では、池本義信都高P連会長の

中、高校生による和太鼓

した。



大島丸



大島丸

国際航海船 (総トン数497t)

発表がありました。講

演会の主な内容は、失敗談で、失敗から何を学んだのか、次にどうつなげたのか、挫折とどう向き合ったのかを伝えることです。

なお、本発表は、8月に開催された、千葉大会でも発表されました。

委員会活動発表では、都高P連の活動を多くの

動内容がよく理解できた。活動をもっと外部にアピールしてほしい。などの声が寄せられ、一定のPRができたと感じて

おります。最後に発表者、参加された高校生をはじめとする関係各位のご協力により、今大会を無事終了できた

ことを感謝申し上げます。第29回は、平成29年7月2日、同会場で行われます。是非ご参加ください。

北信越地区

福井大会

『再発見！愛！』

〜今こそ信じよう愛の絆〜



第51回北信越地区高等学校PTA連合会研究大会福井大会

ました。その後、西川一誠福井県知事、東村新一福井市長から祝辞をいただきました。

合文化祭でも見事「二位優秀賞」を獲得しました。分科会は、市内の4つの会場に分かれて開催されました。高校教育・進路指導・生徒指導・家庭教育とPTAとの関わりをテーマに、合計20本の実践事例発表があり、質疑応答では、参加者と発表者の熱心な討議が展開されました。

2日目は、「宇宙開発という仕事と意義」と題して、三菱重工業株式会社会長に就任された平成26年度の全国大会が教育県として有名な福井県で開催され、実に立派に運営されたことが今でもとても強く印象に残っている旨のことばを伺って、2年

らどのような人間が求められるようになるかについて、グローバルな視点から言及されました。これは、中央教育審議会の教育課程企画特別部会で審議されてきた内容と重なるものであります。

閉会式では、忙しいスケジュールの中を前日夜遅く福井入りされた、全国高P連の佐野元彦会長から挨拶をいただきました。会長に就任された平成26年度の全国大会が教育県として有名な福井県で開催され、実に立派に運営されたことが今でもとても強く印象に残っている旨のことばを伺って、2年

は、7月8日(金)9日(土)の2日間にわたり、福井フェニックスプラザを主会場にして、北信越5県から1200名の参加者を得て開催されました。

開会式では、増永哲也実行委員長と牧田和樹全国高P連副会長の挨拶に続き、PTA活動に功績のあった33名に表彰状と越前焼の記念品が贈られ

当日土芸能部は、この北信越地区福井大会の1カ月後に行われた今年の全国高等学校総

宇宙がどこまで解明されているかということや宇宙開発における現状と日本の進むべき方向について分かりやすく話されました。

また、会場の保護者を意識され、宇宙開発に携わる職業に就くにはどのような進路選択をすればよいか、更には、これか

会場ロビーでは、県内高校生による物品販売やコンベンションビュローによる県内名産品の販売が行われ、大変盛況でありました。



当日土芸能部は、この北信越地区福井大会の1カ月後に行われた今年の全国高等学校総

育懇談会は、720名が参加してフェニックスプラザにて開かれました。増永実行委員長の開会挨拶、森近悦治県教育長の祝辞の後、食の国越前・若狭の海山の幸を使った料理と勝山左義長ばやし

鳥居春仁 会長より祝辞をいただきました。次に株式会社mp i 松香フオニックス会長 松香洋子氏より「家庭・学校・地域で取り組むグローバル人材の育成」我が子をグローバルな人材に育

てするために「く」の演題で講演いただきました。松香氏は、高校の英語教員を出発点にアメリカに子連れ留学し、帰国後は高校講師となりましたがその後、フオニックス学習による児童英語教育

に専念されています。高校の英語教育や高校生にも深く興味を持たれ、自分の経験をおしりて百年に一度と言われる教育改革が進む中、家庭・学校・地域が連携して、いかに次代に生きるグ

東海地区

静岡大会

『生徒・保護者、そして地域に貢献できるPTA活動』

平成28年度東海地区高等学校PTA連合会静岡大会が6月17日(金)に静岡市の静岡市民文化会館大ホールを会場に東海

地区の四県から1673人の会員が参加して開催されました。

開会式では、本年度東海地区高P連会長に就任

した杉浦政紀会長と全国高P連佐野元彦会長の挨拶の後、静岡県教育委員会 木苗直秀 教育長、静岡県高等学校長協会

をいただきました。次に株式会社mp i 松香フオニックス会長 松香洋子氏より「家庭・学校・地域で取り組むグローバル人材の育成」我が子をグローバルな人材に育

てするために「く」の演題で講演いただきました。松香氏は、高校の英語教員を出発点にアメリカに子連れ留学し、帰国後は高校講師となりましたがその後、フオニックス学習による児童英語教育

館大ホールを会場に東海

地区の四県から1673人の会員が参加して開催

開会式では、本年度東海地区高P連会長に就任

した杉浦政紀会長と全国高P連佐野元彦会長の挨拶の後、静岡県教育委員会 木苗直秀 教育長、静岡県高等学校長協会

をいただきました。次に株式会社mp i 松香フオニックス会長 松香洋子氏より「家庭・学校・地域で取り組むグローバル人材の育成」我が子をグローバルな人材に育

てするために「く」の演題で講演いただきました。松香氏は、高校の英語教員を出発点にアメリカに子連れ留学し、帰国後は高校講師となりましたがその後、フオニックス学習による児童英語教育

第58回中国・四国地区
高等学校PTA連合大会
会香川大会は、7月15日

中国・四国地区

香川大会

発信！PTAとふるさとのソコチカラ

空と海 オリーブのくにから

(金)、レクザムホールに
おいて、中国・四国地区
各県より1918名の会

員が一堂に会し、盛大に
開催されました。
開会行事では中四国高

P連・泉満会長の、「子どもたちを取り巻く様々な課題の解決のために、PTAに携わる私たち一人ひとりのチカラと地域の再生、ふるさとの活性化が重要である。」と大会テーマに込めた想いに触れた挨拶に続き、全国高P連・佐野元彦会長、香川県教育委員会・西原義一教育長の挨拶、浜田

恵造香川県知事、大西秀人高松市長の祝辞をいただきました。

続いて、本県にゆかりのある演出家、宮本亜門氏を講師に迎え、「違う

大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会

催しました。
大会前日の近畿地区高P連総会は、各府県市より新旧会長・副会長・事務局長の出席のもと盛会



PTA 地区高 等学校

近畿地区

大阪大会

『生きる力』の源泉
『子どもたちから学び、大人が育みたいもの』

裏に開催され、平成28年度地区会長に滋賀県立高等学校連合会会長の森野真氏が選出されました。

また、昼食弁当をなくし、午後1時ごろまでに閉式となりました。なお、今大会に係る運営経費は全て大会参加費（PTA会費等）で賄いました。

その後、近畿地区広報紙コンクール入賞校10校の表彰があり、本年3月末をもって退任された各府県市会長・事務局長に、これまでの諸活動等に対し感謝状と記念品が贈られました。結びには次年度開催の滋賀県からご当地学校のキャラクターが3体参加する中、当該実行委員会代表者より和やかなPRがあり、開会行事は滞りなく幕となった。



引き続き、大会テーマ『生きる力』の源泉『子どもたちから学び、大人が育みたいもの』に基づいた柳本晶一氏による特別講演に続き、パネルディスカッションでは、パネリストによる心柄に共感する討論が行われ、多様な人格や感性をいかに理解するのか等々について、各々の立場や経験からの意見や体験が述べられた。金子

恵造香川県知事、大西秀人高松市長の祝辞をいただきました。

らよいかなど、随所に英語によるゲームや対話を取り入れ、分かり易く講演をいただきました。日ごろ仕事（英語教育）を



ローバル人材の育成をするか、また、家庭においていかに子どもを育てたらよいかなど、随所に英語によるゲームや対話を取り入れ、分かり易く講演をいただきました。日ごろ仕事（英語教育）を

とおして感じているお話の中で、普段の生活で話が苦手な子供が簡単に英語を話すことはできない。常に人前で簡潔に話すこと、面白いことも言うこと、そして、「あなたと友達になりたいな」と思うような人間であることがすべてにつながっていくと説かれていました。

続いて、研究協議が行われ、「生徒指導とPTA」で、静岡県立焼津水産高等学校 興津邦彦PTA会長他役員の皆様により「生徒指導は朝ご飯から朝食をしつかり食べる」とが与える好影響」と題して、平成17年度から始まった取

組みをデータにまとめ、その成果として朝食の欠食率を減らすことによつて、新体力テストの向上や生徒指導件数の減少など好影響を与えているとの発表がありました。

「家庭教育とPTA」では、三重県立石薬師高等学校 阪倉悦子PTA前会長より「PTA活動と家庭の教育力向上に向けての取組み（生徒や先

生と共に学ぶ）」と題しての発表がありました。



PTA総会や各種活動で出席者の少ない現状を踏まえて、新しく保護者が先生方や生徒と共に学ぶ機会として研修会・講座を三回実施したとの発表がありました。

閉会式では、三重県高P連会長細淵 修会長より次年度開催県としての挨拶と閉会のことばをいただきました無事大会が閉幕しました。

とおいた大会が熊本・大分地震の余震がまだ治まらない中、開催も危ぶまれましたが「九州はひとつ」の合言葉の下、「kizuki!」の合言葉の下、と未来へ新しい時代を生きた子どもたちへの「の」テーマで九州各県から2,656名、被災地熊



九州地区

大分大会

kizuki! ことと未来

新しい時代を生きた子どもたちへ

第60回記念九州地区高等学校PTA連合大会おんせん県分大会が熊本・大分地震の余震がまだ治まらない中、開催も危ぶまれましたが「九州はひとつ」の合言葉の下、「kizuki!」の合言葉の下、と未来へ新しい時代を生きた子どもたちへの「の」テーマで九州各県から2,656名、被災地熊



本からも多くの会員が参加し、6月16日(木)6月17日(金)に湯の町別府市「ビーコンプラザ」で開催されました。大会前日の16日(木)には九州PTA連の4委員会・理事会・総会が開催され、平成28年度への第一歩を踏み出しました。懇談会は大分市に会場を移し、大分上野丘高校邦楽部による

た。翌日17日は分科会では始まり、第一分科会は「青少年の健全育成とPTA活動」のテーマで沖縄県、福岡県、長崎県、大分県、第二分科会は「進路指導とPTA活動」のテーマで熊本県、佐賀県、宮崎県、鹿児島県からそれぞれ、実践発表がなされました。質疑も活発に行われ、発表されたいろいろな取り組みの中からアイデアや実行力を勉強させていたとき、母親としてPTAとして活かしていきたいとの声も聞かれました。第三分科会は「グローバル人材の育成に向

けてくこれからの時代を予測する」テーマでパネルディスカッションが行われました。基調講演では立命館アジア太平洋大学副学長であります横山研治先生が現在グローバルキャンパスとなっている大学の設立からの経緯、日本のグローバル教育の課題や提言を、前日イタリアから帰国されたばかりでしたが疲れも感じさせずに熱く語られました。コーディネーターは基調講演をお願いした横山先生、パネリストは元ユニセフ職員、東京大学大学院客員共同研究員の岩佐礼子先生、企業の立場からの発言をお願いした大分製紙株式会社田

北裕之代表取締役社長、留学生の立命館アジア太平洋大学国際経営学部4年生インド出身のジャスリーンさんを迎え、グローバル人材の育成に向けて熱のこもった意見交換が行われました。アトラクションでは県内唯一の芸術専門高校の芸術緑丘高校音楽科の生徒による弦楽四重奏、由布高校郷土芸能部による「庄内神楽」が披露されました。昼食後の良い鑑賞の一時であったと思われま。記念講演は全日本女子バレーボール アテネ・北京オリンピック監督 柳本晶一氏による「人生、負け勝ち」と題する、目標と挫折の織りなす中で



ご自身の幼少期の経験を紹介し、背中を押してくれる人との出会いにより、「違う意見や視点があつていい。そう思えることで小さな自信が芽生えてきた。人生は舞台。



から面白い、面白い、素晴らしいの演題で講演が行われました。



午後からの研究協議では、山口県高P連・一柳大志副会長、香川高

P連・小林康則前副会長の両氏を議長に、3つの実践・研究発表が行われました。「学校教育とPTA」地域で織り成すふれあまつり」と題して、岡山県立井原高校・岡本健博PTA会長、「社会に求められる人づくり」探究型人材育成とPTA活動」と題して、高知県立高知工業高校・濱渦教邦PTA会長、「被災地交流を通して」と題して、香川県立琴平高校・

村岡善邦PTA会長から、それぞれの地域や学校の特性を生かした興味深い内容の発表があり、その後活発な質疑応答が行われ、大変有意義な研究協議となりました。

次に、高校生による発表があり、香川県立琴平高校なぎなた部の音楽に合わせた一糸乱れぬ「リズムなぎなた」の演技、坂出第一高校食物科料理研究部の見事な包丁さばきをみせた「料理



パフォーマンス」、香川県立高松商業高校書道部の躍動感あふれる「書道パフォーマンス」を披露し、県内のそれぞれの部を代表する3校の発表は参加者に大きな驚きと感動の波を広げました。

閉会行事では、同好会の高校生が手話通訳を行い、日頃の手話学習の成果を披露、また県内の農業科の高校生による生産品販売も大盛況で、地元高校生のソコデカラを存分に発揮しました。

全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？全国高P連加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

生徒1名あたり年間400円(保険料391円+制度維持費9円)

※補償開始日が平成29年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	平成24年度事故発生件数
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1 事故 1 億円 自己負担額 1 事故 5 千円 (注)対人事故・対物事故合算して 1 億円が限度となります。	99%超
2. P T A活動の遂行に起因する賠償責任 (P T Aの賠償責任)	対 人	1 名 5 千万円・1 事故 5 億円
	対 物	1 事故 5 千万円
	自己負担額 1 事故 1 千円 (注)対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物	加害者 1 名 10 万円 保険期間中 500 万円 自己負担額 1 事故 5 千円
		1%未満

年度	支払金額(千円)	事故内容
19年度	87,915	無灯火の自転車 ^① で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 【過去最高支払金額】
24年度	40,206	自転車 ^① で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
26年度	23,602	自転車 ^① で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向にあります。自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
東京都千代田区神田佐久間町2-1 奥田ビル301号
TEL. 03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当：公務第二部 文教公務室)	TEL. 03-3515-4133
共同引受保険会社	A I U損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社	TEL. 03-5819-3416 TEL. 03-3259-4061 TEL. 03-3593-6456

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援

AIU 高校生国際交流プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org/>

「育てたいのは、子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

AIU 損害保険株式会社
tel: 03-3216-6611 www.aiu.co.jp

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険
住まいの保険
ケガの保険

www.ms-ins.com

TOKIOMARINE NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

損保ジャパン日本興亜は
SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03-3349-3111
〈公式サイト〉 <http://www.sjnk.co.jp/>



平成28年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員会名簿



役職名	氏名	担当	推薦区分	県名	備考
会長	佐野元彦	総務委員	東北	秋田	
副会長	牧田和樹	総務委員	理事会	富山	
副会長	森崎綾子	総務委員	理事会	京都府	
専務理事(業務執行理事)	木戸浩久	総務委員長 賠償責任補償制度運営委員長	理事会	大分	
常務理事(業務執行理事)	内田志づ子	総務委員	全国高等学校長協会		事務局長
理事	野田誠	進路対策委員長	理事会	徳島	
理事	川原慎一	調査広報委員長	理事会	鹿児島	
理事	山本富造		北海道	北海道	
理事	山野公寛		東北	宮城	
理事	大石幸和		関東	神奈川	
理事	池本義信	研修委員長	東京	東京	
理事	増永哲也		北信越	福井	
理事	杉浦政紀		東海	静岡	
理事	森野真		近畿	滋賀	
理事	泉満	健全育成委員長	中国四国	香川	
理事	川部幸博		九州	熊本	
監事	坂井正人		理事会	新潟	任期継続1年目
監事	北村正次		中国四国	広島	任期継続1年目
顧問	相川順子		前会長		
相談役	高間專逸		元会長		
相談役	小栗洋		全国高等学校長協会事務局長		

総務委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・専務理事	大分	木戸浩久
会長	秋田	佐野元彦
副会長	富山	牧田和樹
副会長	京都府	森崎綾子
常務理事	全国高等学校長協会	内田志づ子

健全育成委員会

職名	所属県名	氏名
委員長	香川	泉満
委員	北海道	新井田寛
委員	山形	白田宗綱
委員	茨城	篠塚洋一
委員	東京	高田教子
委員	富山	石坂兼人
委員	岐阜	加納一郎
委員	神戸市	秦一弘
委員	福岡	田中昇勇

進路対策委員会

職名	所属県名	氏名
委員長	徳島	野田誠
委員	北海道	山本富造
委員	福島	田中清美
委員	埼玉	成田元彦
委員	東京	芦沢貴美枝
委員	新潟	川上克
委員	三重	細渕修
委員	和歌山	西原英男
委員	宮崎	長岡政己

調査広報委員会

職名	所属県名	氏名
委員長	鹿児島	川原慎一
委員	北海道	種田千草
委員	秋田	石嶋勝比古
委員	群馬	佐藤昌義
委員	東京	木村豊行
委員	長野	西野孝章
委員	愛知	酒井延直
委員	奈良	堀裕明
委員	島根	大屋光宏

研修委員会

職名	所属県名	氏名
委員長	東京	池本義信
委員	北海道	福井玲子
委員	青森	大溝雅昭
委員	千葉	大木幸夫
委員	石川	村太健二
委員	静岡	小山全司
委員	大阪市	山口享
委員	高知	川北恭弘
委員	佐賀	伊東猛彦

賠償責任補償制度運営委員会

職名	所属県名	氏名
委員長	大分	木戸浩久
委員	北海道	宮川恒美
委員	岩手	高橋秀幸
委員	埼玉	島崎富夫
委員	東京	青木真佐枝
委員	新潟	荒木和義
委員	岐阜	水谷英彦
委員	神戸市	木津英也
委員	香川	井上直樹
委員	熊本	小林博

一般社団法人全国高等学校PTA連合会 組織概要

1 本法人の目的（定款第2条）

この法人は、高等学校PTA活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

2 本法人の事業（定款第4条）

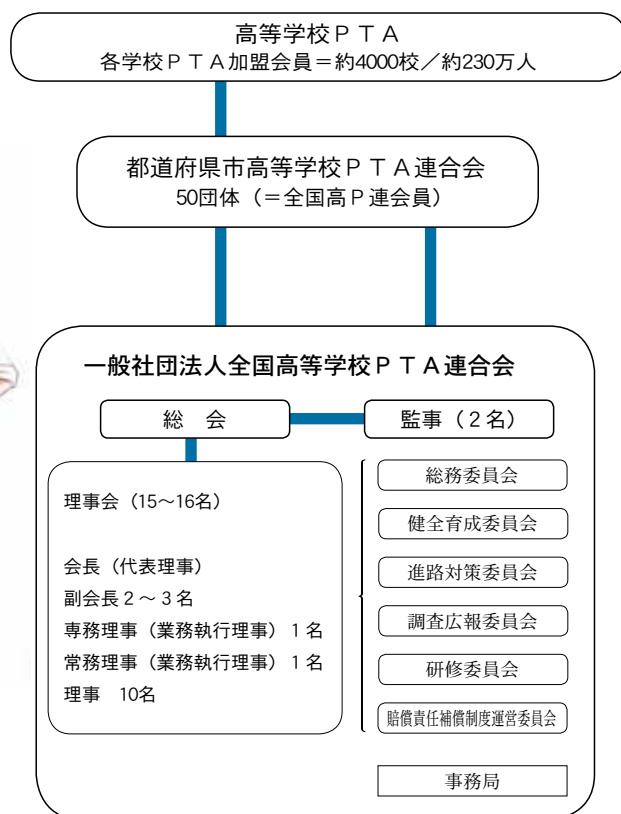
この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 高等学校PTA活動の質的向上に資する研究大会、講演会、研修会等の開催
- (2) 高等学校PTA活動に関する調査研究
- (3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供
- (4) 広報紙等の刊行
- (5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰
- (6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動
- (7) 賠償責任補償制度運営に関する活動
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項各号の事業は、日本全国において行う。



（イラスト）東京都立大泉桜高等学校 2年 南方 夏子 さん



一般社団法人全国高等学校PTA連合会 会員概況

平成28年9月1日現在

	会員団体数 =連合会数	各団体加盟状況		賠償責任補償制度加入状況	
		学校数	生徒数（人）	学校数	生徒数（人）
北海道地区連合会	1道	259	111,078	116	40,220
東北地区連合会	6県	464	190,981	281	125,323
関東地区連合会	7県	758	513,891	444	339,586
東京地区連合会	1都	79	56,918	24	17,053
北信越地区連合会	5県	325	172,840	114	58,965
東海地区連合会	4県	498	305,381	303	189,337
近畿地区連合会	2府4県3市	532	357,843	350	249,910
中四国地区連合会	9県	523	245,012	320	161,383
九州地区連合会	8県	591	294,184	234	121,333
合計	50団体	4,029	2,248,128	2,186	1,303,110